

病害虫発生予察情報予報第10号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要

作物名	病害虫名	1月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除 のてびきの 記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ (本圃)	うどんこ病	並	並	194~196	 イチゴ 灰色かび病
	灰色かび病	多	多	197~198	
	ハダニ類	並	並	204~205	
	アブラムシ類	並	並	210~211	
特記事項 1. イチゴ灰色かび病 発病果の早期除去、適切な温湿度管理、予防的な薬剤防除を組み合わせで防除する。高設栽培では土耕栽培に比べ発生が多くなるので注意する。 2. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 ミツバチへの影響が小さい薬剤を選択するとともに、散布前に巣箱を圃場外に持ち出す。また、ミツバチが活動する時間帯の散布は控える。					
野菜 ナス	すすかび病	多	多	231~232	 ナスすすかび病
	灰色かび病	多	やや多	230~231	
	菌核病	多	多	233	
	アザミウマ類	少	少	242	
	コナジラミ類	並	やや多	240~241	
	ハモグリバエ類	やや少	並	243	
特記事項 1. すすかび病 初発生時からダコニール1000とベルコートフロアブルを交互に1週間間隔で、約1ヶ月間散布する。 2. 灰色かび病・菌核病 発病部位は早めに除去し、発生初期からの防除を徹底する。					
キュウリ	べと病	多	多	173~174	 キュウリ褐斑病
	うどんこ病	並	並	179~181	
	褐斑病	多	多	177	
	アザミウマ類	並	やや少	188~189	
	コナジラミ類	並	並	187~188	
特記事項 1. べと病、褐斑病 圃場に残る発病葉が伝染源となるため、発病残さは圃場外で処分するとともに、発生初期からの薬剤防除を徹底する。					

野菜	トマト	疫病	多	多	215～216	 トマト疫病
			注意報第7号を参照			
		葉かび病	やや多	やや多	221～222	
		灰色かび病	多	並	216～217	
		コナジラミ類	多	多	149～151 224～226	
		やや少	並	158～159 228		
		特記事項 1. 疫病 本病が平年より多く発生している。本病の発生を認めたら、初期防除を徹底するとともに、罹病部位を取り除き圃場外で適切に処分する。 (病害虫発生予察注意報第7号を参照)				
		2. うどんこ病・すすかび病 これら病害が一部圃場で発生している。こまめな換気や循環扇を活用するなどして適切な湿度管理に努めるとともに、本病の発生を認めたら、初期防除を徹底する。				
		3. ウイルス媒介虫（コナジラミ類・アザミウマ類） これらは、黄化葉巻病等のウイルス病を媒介するため、発生初期の防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取り、適切に処分する。また、ネットの破損が無いか点検し、破損があった場合は補修を行う。				
	施設野菜 共通	特記事項 1. 病害対策 気温および湿度とも高く推移し、各種作物の灰色かび病、トマト疫病、キュウリ褐斑病等の病害が発生しやすい条件となっている。発病部位の早期除去、適切な温湿度管理、予防的な薬剤防除を組み合わせる。				
	露地野菜 共通	特記事項 1. 病害対策 気温が高く、降水量も多く推移しており、タマネギべと病、キャベツ菌核病、レタス灰色かび病が発生しやすい条件となっている。発病株は早期に除去、処分するとともに、薬剤防除を徹底する。				
花 き	キク (4～5月 出荷タイプ)	白さび病	多	多	375～376	 キク白さび病
		アザミウマ類	並	並	382～383	
		アブラムシ類	並	並	379～380	
		ハダニ類	並	やや多	380～381	
		ハモグリバエ類	並	並	384～385	
		1. 白さび病 発病後の防除は難しいため、薬剤の定期的な散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組合わせて防除する。				
		2. アザミウマ類 発生を抑えるため、次作開始前に粒剤を施用する。また、発生源となる施設内及び施設周辺の雑草まで除去する。				

3. クロゲハナアザミウマ

一部の地域で発生が認められる。発生初期からの防除を徹底するとともに本虫は葉裏に寄生していることが多いので、葉裏にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

キクえそ病・茎えそ病の媒介を防ぐため、本虫に対する発生初期からの防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取る。

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

○平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

○農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。

○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

○各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「[県防除のてびき](#)」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

○1ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
3ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

III. 1月の気象条件

病害虫の発生に関与する1月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（平成27年12月17日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年より多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に關与する気象条件

要素	1ヶ月予報における1月の気象予報(確率予報%)			病害虫の発生に關与する気象条件(平年比)
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	30(5.4℃)	60	高い
降水量	20	30(56.7mm)	50	多い

IV. 1月の予報

イチゴ(本圃)

巡回調査(12圃場)
調査日: 12月15~18日



巡回調査圃場の様子

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査(図1参照)

発生株率: 6.0% (平年13.1%、前年13.0%)

平年比: やや少く(〜±)

前年比: やや少く(〜±)

② 病害虫防除員による調査(4圃場)

2圃場で発生確認、発生株率は7.0% (〜±)

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉および果実での発生状況に合わせ、約2週間~1ヶ月間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。

(2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

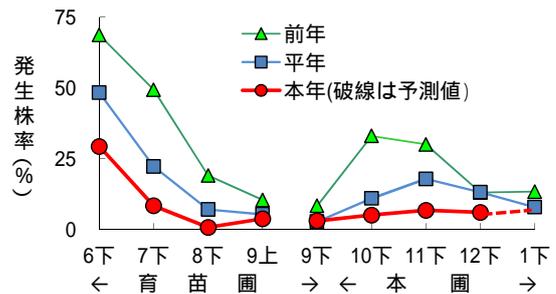


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査(図1参照)

発生果率: 0.7% (平年0.0%、前年0.1%)

平年比: 多(+)

前年比: 多(+)

② 病害虫防除員による調査(4圃場)

1圃場で発生確認、発生果率は1.0% (+)

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件(+)

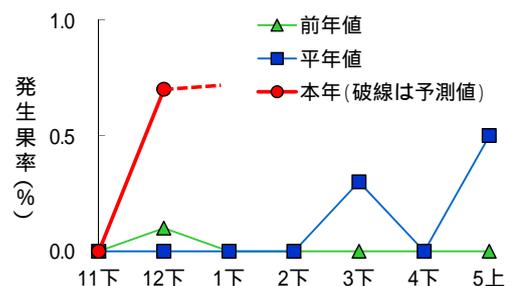


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病果は伝染源となるため、見つけ次第除去し、圃場外で適切に処分する。
- (2) こまめな換気や循環扇を活用するなどして適切な湿度管理を行う。
- (3) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう発生前から計画的な防除を行う。
- (4) その他については特記事項を参照。

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：12.7%（平年9.2%、前年16.7%）

（発生圃場率：42%であり圃場間差が大きい）

平年比：並（±）

前年比：並（±）

②病害虫防除員による調査（4圃場）

2圃場で発生確認、発生株率は2.0%（-〜±）

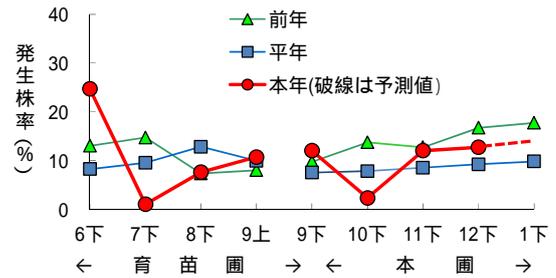


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ハダニ類の薬剤に対する感受性は圃場間で異なるため、効果低下を認めた薬剤の使用は控え他系統の薬剤を利用する。
- (2) 天敵放飼の有無に関わらず随時発生状況を確認し、増加する前に薬剤防除を行う。

ナス（促成）

巡回調査（8圃場）
12月15～16日



巡回調査圃場の様子

1. すずかび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：7.5%（平年2.8%、前年0%）

（発生株率45%の多発生圃場を1圃場確認）

平年比：多（+）

前年比：多（+）

②病害虫防除員による調査（4圃場）

発生株率：0%（-〜±）

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件（+）

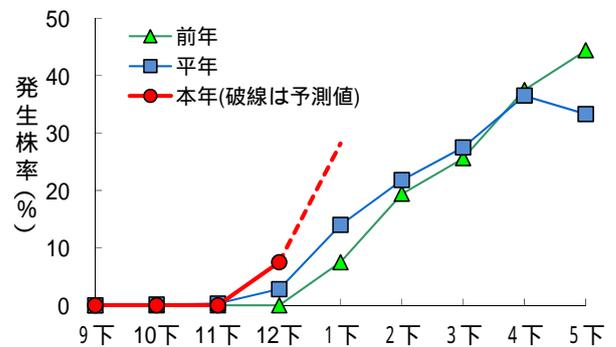


図1 ナスすずかび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。
- (2) その他については特記事項を参照。

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0.5%、前年0%）

平年比：並く±

前年比：並く±

② 病害虫防除員による調査（4圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は2.5%く+

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件く+

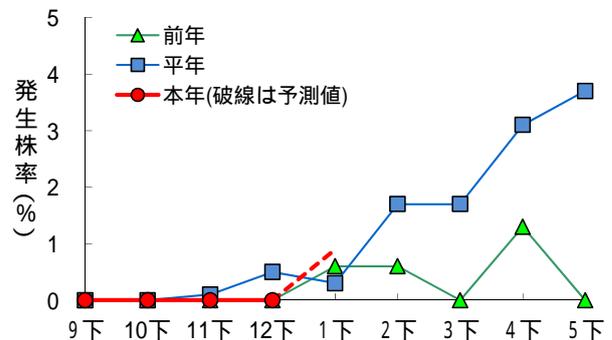


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

(2) その他については特記事項を参照。

3. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0.1%、前年0%）

平年比：並く±

前年比：並く±

② 病害虫防除員による調査（4圃場）

発生株率：0%く±

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件く+

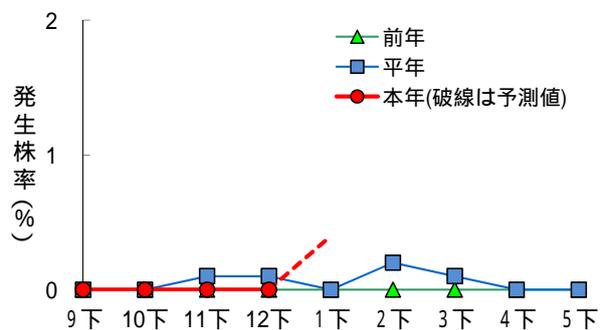


図1 ナス菌核病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：3.8%（平年23.1%、前年15.6%）

平年比：少く-

前年比：やや少く〜±

② 病害虫防除員による調査（4圃場）

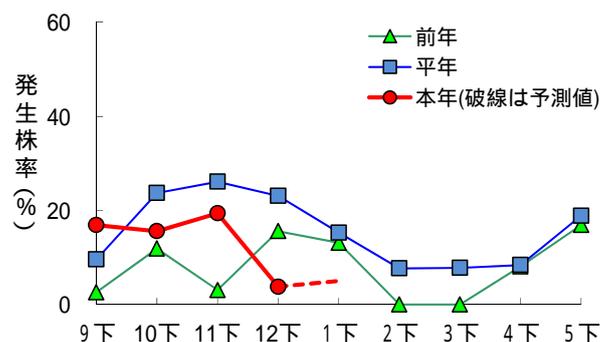


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

3圃場で発生確認、発生株率は13.8%（～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：17.5%（平年25.9%、前年2.5%）

平年比：並（±）

前年比：やや多（±～+）

② 病害虫防除員による調査（4圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は2.5%（～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

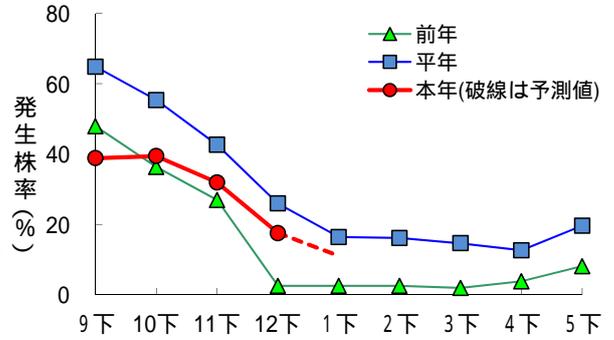


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

キュウリ（半促成）

巡回調査：7圃場
 (3圃場は抑制栽培を継続中)
 調査日：12月17日～18日



巡回調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：14.3%（平年15.2%、前年15.0%）

平年比：並（±）

前年比：並（±）

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。
- (2) その他については特記事項を参照。

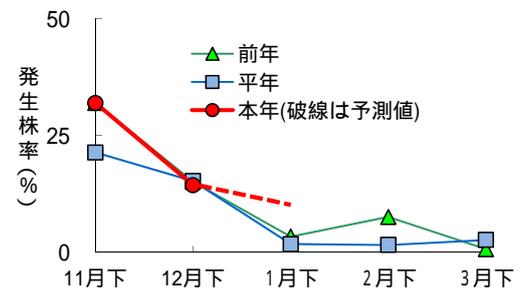


図1 キュウリベと病の発生推移

2. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

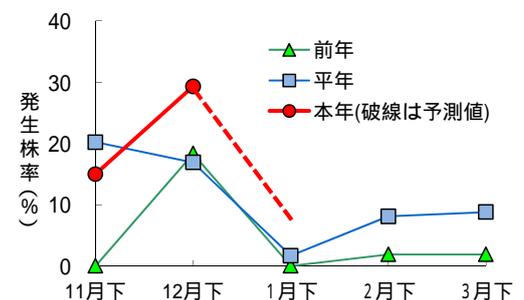


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：29.3%（平年16.9%、前年18.3%）

平年比：やや多（±～+）

前年比：並（±）

(2) 1月の気象予報

降水量がやや多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 褐斑病の耐病性品種においても初発生時から計画的な防除を行う。

(2) その他については特記事項を参照。

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：2.1%（平年4.0%、前年2.5%）

平年比：やや少（-～±）

前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 黄化えそ病の発生を認めた場合は、直ちに株を処分し、媒介虫の防除を徹底する。

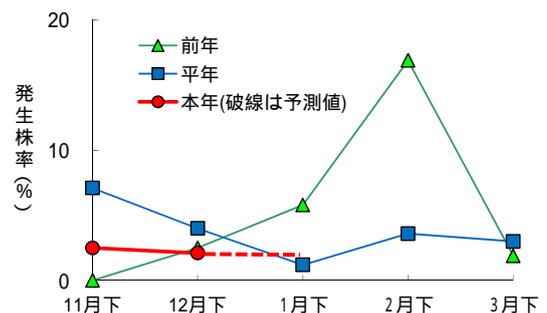


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

トマト

巡回調査（8圃場）
12月15～18日



巡回調査圃場の様子

1. 疫病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：4.4%（平年0.2%、前年0%）

平年比：多（+）

前年比：多（+）

②病害虫防除員調査（6圃場）

2圃場で発生確認、発生株率は3.3%（+）

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項及び [平成27年12月22日付注意報第7号](#) を参照。

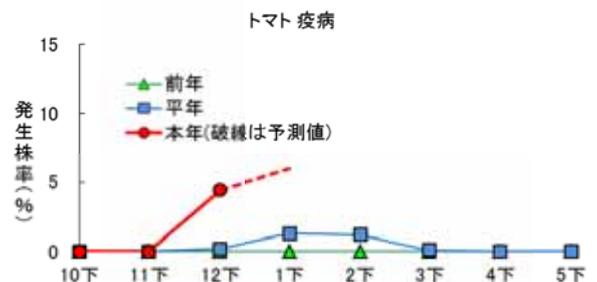


図1 トマト疫病の発生推移

2. 葉かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年1.5%、前年0%)

平年比：やや少く(ー～±)

前年比：並(±)

② 病害虫防除員調査 (6圃場)

発生株率：0% (±)

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) こまめな換気や循環扇を活用するなどして適切な湿度管理を行う。

(2) 本病の発生を認めたら、初期防除を徹底する。

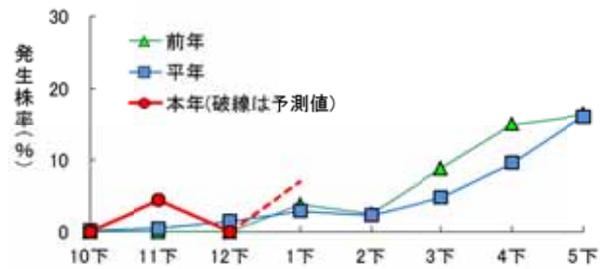


図1 トマト葉かび病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：0.6% (平年0.3%、前年2.5%)

平年比：並(±)

前年比：少(ー)

② 病害虫防除員調査 (6圃場)

発生株率：0% (±)

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 例年1月から発生が増加する。発病果や発病葉は除去し、発生初期からの防除を徹底する。

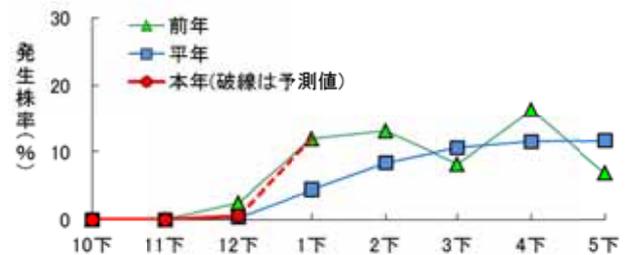


図1 トマト灰色かび病の発生推移

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：8.8% (平年3.0%、前年5.0%)

平年比：多(+)

前年比：多(+)

② 病害虫防除員調査 (6圃場)

2圃場で発生確認、発生株率は3.3% (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

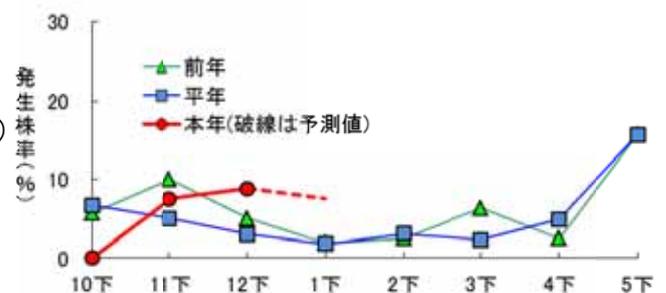


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

5. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

①巡回調査

食害株率：0%（平年6.2%、前年1.3%）

平年比：やや少（-～±）

前年比：並（±）

②病害虫防除員調査（6圃場）

1圃場で発生確認、食害株率は1.7%（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫寄生葉は除去し、施設外へ持ち出して処分する。
- (2) 本虫の発生を認めたら、初期防除を徹底する。

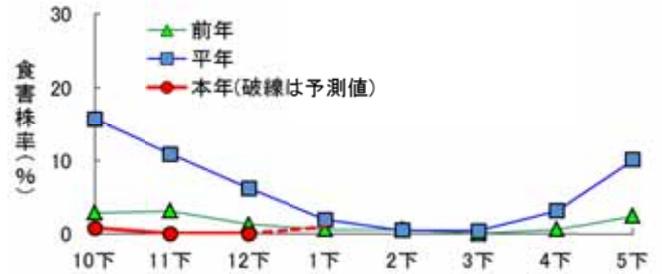


図1 ハモグリバエ類のトマトでの発生推移

キク

巡回調査（8圃場）

12月15～18日



巡回調査圃場の様子

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：6.8%（平年5.8%、前年17.3%）

平年比：並（±）

前年比：少（-）

(2) 1月の気象予報

降水量が多く、多発生の条件（+）

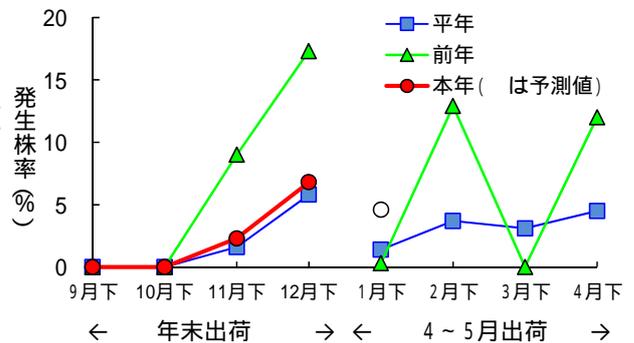


図1 キク白さび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように.....
- (2) 暖房機による送風や循環扇を活用するなどして、適切な湿度管理に努める。
- (3) その他については特記事項参照。

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に11月26日～12月18日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
イチゴ	ハダニ類	12/1 宮崎県 12/2 熊本県			
	灰色かび病	12/17 長崎県			
キュウリ	べと病			12/1 愛知県	
白ネギ	べと病	11/25 大分県			

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名	病害虫名	発表日及び発信元
野菜	トマト	11/30 茨城県 12/4 神奈川県
	ナス	12/15 群馬県
	シソ、エゴマ	12/1 愛知県
	メボウキ（バジル）	11/17 神奈川県

農薬の適正使用を徹底しましょう！

◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。

農薬の登録内容は変更されることがあります。

使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。